第7章
支援に初めて参加したい人のためのQ&A

　支援に参加したいが初めての場合、どのように参加先を見つけたらよいのかなど、わからないことが多い。まずやってみる、ということも大事である。

Q1　日本語教育の支援に参加するには、どこにコンタクトすれば良いですか？

A1　地元の国際交流協会が日本語教室を実施していることが多いので、インターネットでホームページを見ると様子がわかります。その上で同協会に電話をして、必要に応じ訪問して詳しいことを聞くと良いでしょう。
　国際交流協会自身が日本語教室を運営している場合もありますし、NPOや任意団体に業務を委託している場合もあります。
　また、NPOが独自に実施している場合もあります。NPOを探すには、群馬県の例では、県のホームページの中に「NPO・ボランティアのひろば」というサイトがあり、その中に「NPOのデータベース」があります。そこで自分が活動したい市を選択し、活動分野検索で「国際協力」を検索します。まだ絞り込み切れないのですが、ここからはひとつひとつのNPOの内容を見て探すと良いでしょう。

Q2　NPOとそうでない団体は何が違うのですか？

A2　NPOは「特定非営利活動法人」の略で、法人です。役員、会員などの体制や年に1回の事業報告・財務報告を県に提出するなど、法律で定められた運営をしています。
　任意団体は届け出無しで設立できる団体です（但し、税法上の収益事業や従業員に給料を払う場合は必要な届け出があります）。法人にする必要性がなく自由に活動したい場合や、NPOになる前に活動の経験を積みたい場合は任意団体が適しています。
　どちらにしても、具体的にどういう活動をしているかを調べましょう。
　任意団体を探すひとつの方法は、市役所でボランティア活動や市民活動を扱っている部署で聞くと良いでしょう。

Q3　日本語教育の支援に参加をするために、何か資格が必要ですか？

A3　資格が無くても参加できます。ただし、支援を実践しながら、参加したNPOや任意団体にいるリーダー格の人に現場で教えてもらうなど、正しい教え方を積極的に学んでください。教えられる側の児童生徒にとっては、どのように学べるかで、日本語の上達のスピードや得られる日本語力に影響しますので。また、国際交流協会やNPOなどが行なう養成講座に積極的に参加するのが良いでしょう。

Q4　日本語教育の資格にはどういうものがありますか？

A4　国家資格としてはありませんが、最もレベルが高いのは「日本語教育能力検定試験」です。また、民間機関が実施している「日本語教師養成講座」の420時間以上の講習があります。大学で日本語教育履修科目を履修し卒業することも日本語教育の専門知識・技術を持っていると認められます。

Q5　日本語教育で外国人を支援するために、外国語が話せないとだめですか？

A5　日本語を日本語で教えるという「直接法」を採用することが多いので、外国語が話せなくても支援はできます。
　外国人児童生徒にとって、支援者がもし母国語を話せるとメリットがあるケースは、日本に来て間もないなどで日本語の力がゼロの場合、特にスタートの段階で母国語も織り交ぜると基礎が理解しやすいということはあります。これは、必須のことではありません。

Q6　教科学習を支援する場合、支援者が中学や高校で学んだ教科の内容をもう覚えていないと支援できないですか？

A6　外国人児童生徒の教科学習支援の場合、基本を学ぶことが大事ですので支援者は基本の知識は思い出しておく必要があります。
　実際の支援現場では、自分が教えられない教科の場合は、教えられる他の支援者に担当してもらいます。いろいろな支援能力の支援者がいるチームとして、どの児童生徒をどの支援者が担当するかを決めています。

Q7　支援は、対象の児童生徒がどのくらいのレベルになるまで行う必要があるのかの考え方を教えてください。

A7　支援の考え方は、なにもかも教えるというのではなく、児童生徒が自分で勉強できる力がつくことを後押しする、「自律の後押し」です。

Q8　支援対象の児童生徒の国の文化や習慣をよく知らないのですが、大丈夫でしょうか？

A8　対象の児童生徒の国の文化や習慣については少しでも良いので知っている方が良いです。例えば、学校制度や学校生活は国によって結構違うので、インターネットなどで知識を得ておくと良いです。
　また、休み時間などに雑談する際に児童生徒から教えてもらうのも良いと思います。児童生徒は自分の知っている国のことなので、自信をもって話ができますし、それを通して認めてもらっていると感じることもあります。

Q9　支援に参加したら必ず参加し続けないといけないですか？

A9　教育は持続して蓄積していくものなので毎回参加は望ましいことですが、あくまでもボランティア（有志）なので、無理のない範囲で参加することが支援を続けるには大事なことです。支援者が無理をすると、それは児童生徒の気持ちに影響します。
　支援を休む時は、事前に団体に連絡することも大事です。事前にわかれば、支援者のローテーションの中であらかじめ対処できますので。